畑作・野菜・花き生産情報 第７号

令 和 ６ 年 １ ０ 月 １ ８ 日
青森県「農林水産力」強化本部

◎　大豆は、ほ場ごとの適期収穫で良品生産に努めよう！
◎　小麦は、ほ場の排水対策と雪腐病防除を徹底しよう！
◎　ながいもは、適期収穫で良品生産に努めよう！
◎　秋ギクは、病害虫の防除を徹底し、親株は適切な温度管理をしよう！

１　大　豆

（１）生育状況

・早いほ場では成熟期となり、収穫作業が始まっている。
・倒伏しているほ場が散見される。

【表　大豆の生育状況（10月15日現在）】

場　所	年　次	は種期（月日）	出芽期（月日）	開花期（月日）	成熟期（月日）
農林総合研究所（黒石市）	本　年	5/24	6/4	7/22	10/14
	(平年差)	(1日早)	(1日早)	(5日早)	(3日遅)
	平　年	5/25	6/5	7/27	10/11
	前　年	5/25	6/5	7/21	10/14
野菜研究所（六戸町）	本　年	5/25	6/5	7/23	未達
	(平年差)	(10日遅)	(11日遅)	(3日早)	－
	平　年	5/15	5/25	7/26	10/14
	前　年	5/25	6/4	7/26	11/2
藤崎町（中野目）	本　年	6/7	6/14	7/25	10/12
	(平年差)	(5日遅)	(2日遅)	(3日早)	(3日早)
	平　年	6/2	6/12	7/28	10/15
	前　年	6/1	6/10	7/23	10/11
つがる市（木造土滝）	本　年	5/26	6/7	7/22	10/8
	(平年差)	－	－	－	－
	平　年	－	－	－	－
	前　年	－	－	－	－
十和田市（切田）	本　年	6/9	6/15	7/27	10/14
	(平年差)	(2日遅)	(1日遅)	(8日早)	(2日遅)
	平　年	6/7	6/14	8/4	10/12
	前　年	6/5	6/12	7/27	10/6

注）①品種は「おおすず」
②平年値は、農林総合研究所が過去17か年、野菜研究所が過去17か年、藤崎町が過去13か年、十和田市が過去３か年の平均値。つがる市は本年から設置のため平年値なし。

（２）今後の留意点

ア　収穫適期の目安

・コンバインによる収穫適期は、茎水分50％以下（主茎の中央部を爪でこすっても、表皮が乾いてむけない状態になった頃）、子実水分20％以下となった時期である。

イ　収穫

・収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するので、収穫適期に達したほ場は計画的に刈取る。

・ほ場内の雑草や青立ち株は汚損粒の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。

・収穫は、朝露等による湿りがない時間帯（一般的には午前10時～午後４時）に実施する。

・コンバイン収穫では、土のかみ込みによる汚損粒の発生を防ぐため、無理に地際部まで刈取らない。

・倒伏したほ場は別刈りを行い、品質向上に努める。

ウ　乾燥調製

・乾燥は、検査規格の子実水分15％以下に仕上げる。

・乾燥を始める初期子実水分はできるかぎり、20％以下にする。また、乾燥速度は0.3％/時以下のゆっくりとした速度で乾燥し、急激な乾燥は避ける。

・高水分の場合は通風乾燥を行い、20％以下になってから温度をかける。

２　小　麦

（１）生育状況

・は種後の生育は、おおむね良好である。

（２）今後の留意点

・湿害や雪腐病を防止するため、明きょの設置など排水対策を徹底する。

・耐倒伏性の向上や凍霜害の回避のため、10月下旬から11月中旬にローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田など排水の悪いほ場では、生育が阻害されるので行わない。

・雪腐病の防除のため、登録のある薬剤を11月中旬から下旬に散布する。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。【平成15年度指導参考資料：小麦の雪腐褐色小粒菌核病及び紅色雪腐病に対する水和剤による茎葉散布時期を参照】

・越冬後の追肥は基本的に２回行う。１回目は消雪後から幼穂形成期に、２回目は止葉抽出期から出穂期に実施する。１回当たりの追肥量は窒素成分で２kg/10aを基準とする。

野　菜

１　ながいも

（１）生育状況

・いもの生育は、９月中旬の少雨により、いも径が平年を下回り、品種によっては、

いもが平年より長い傾向が見られるが、おおむね順調である。

・病害虫は、炭疽病や葉渋病、一部でナガイモコガ、ハダニ類の被害葉が見られる。

【表　ながいもの生育状況（10月10日現在）】

調査地点	年次	植付期（月日）	萌芽揃期（月日）	つるのネット頂到達日（月日）	10月10日 茎葉重（g）	いも長（cm）	いも重（g）	いも径（mm）
野菜研究所	本年	5/24	6/21	7/14	758	76.9	874	52.2
	(平年差･比)	(1日早)	(1日早)	(2日早)	(130%)	(91%)	(59%)	(77%)
	平年	5/25	6/22	7/16	581	84.3	1,477	67.9
	前年	5/25	6/23	7/14	577	95.8	1,506	59.8
五戸町上市川	本年	5/20	6/24	7/12		97.3	1,113	52.7
	(平年差･比)	(15日遅)	(13日遅)	(6日遅)	(－)	(105%)	(87%)	(89%)
	平年	5/5	6/11	7/6	－	92.4	1,286	59.5
	前年	5/2	6/14	7/7	－	102.0	1,268	55.7
東北町滝沢平	本年	5/11	5/29	6/29	－	94.1	1,337	58.4
	(平年差･比)	(3日遅)	(7日早)	(10日早)	(－)	(126%)	(118%)	(100%)
	平年	5/8	6/5	7/9	－	74.9	1,134	58.5
	前年	5/5	6/1	－	－	71.3	760	50.4

注）①平年：野菜研は令和３～令和５年の３か年の平均値
五戸町、東北町とも平成26～令和５年の10か年の平均値。なお、東北町は令和６年度から担当農家を変更した（萌芽期のデータを除き、過去のデータの蓄積があるため平年値として使用した。ただし、令和６年度からいも長、いも重、いも径の算定方法を変更したため前年値、平年値は参考値）。

②種子：野菜研は園試系６の１年子（90～110ｇ）ガンク切除（植付30日前）、五戸町は庄司系の２年子（120～150ｇ）ガンク切除、東北町は庄司系の１年子（100ｇ）頂芽付

③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm（3,472株/10a）、五戸町は畦幅120cm×株間22cm（3,788株/10a）
東北町は畦幅110cm×株間24cm（3,788株/10a）

（２）今後の留意点

ア　収穫

・収穫は、11月上旬以降、茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから開始する。

・雨天など過湿なほ場条件での掘取作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。

・掘取りに当たっては、表皮を傷つけたり、直射日光や風に当てることがないように注意する。

イ　茎葉・ネットの適正処理

・茎葉の絡んだ「ながいもネット」は、堆肥化等により減量し、ネットと茎葉を分別した上で適正に処理する。

２　秋冬だいこん

（１）生育状況

・９月以降は温暖であったことから、平年より６日早く収穫期を迎え、収量は平年を上回った。

【表　秋冬だいこんの生育状況（10月10日現在）】

調査地点	年次	は種期（月日）	収穫期（月日）	収穫時					収量（kg/10a）	は種から収穫までの日数（日）
				葉長（cm）	葉数（枚）	根長（cm）	根径（cm）	根重（g）		
東北町乙部道ノ下	本年	8/8	10/7	45.2	20.4	38.9	6.9	1,159	8,527	60
	（平年差・比）	（2日遅）	（6日早）	（98%）	（93%）	（116%）	（97%）	（112%）	（107%）	（8日短）
	平年	8/6	10/13	46.2	22.0	33.6	7.1	1,031	7,955	68
	前年	8/8	10/10	47.9	22.9	37.4	7.5	1,107	8,112	63

注）①平年：平成26～令和５年の10か年の平均値（令和４年から担当農家を変更したため平年は参考値）
②品種：Ｓ－１３９
③栽植様式：畦幅151cm×株間27cm、３条植え（7,358株/10a）

（２）今後の留意点

・収穫は、ほ場ごとに試し掘りで肥大状況を確認してから行う。

３　冬のハウス栽培の留意点

・降雪、強風等に備えて、ビニールやマイカ線などの点検・補修を行う。
・二重被覆などにより保温効率を高めるとともに、暖房機の着火装置などの保守点検を行う。
・ハウスからの放熱を防ぐため、被覆資材の破れを修復するほか、つなぎ目の隙間を塞ぐ。
・古い被覆フィルムは採光性が劣ることがあるので、透過性の高いものに替え、汚れが付着したフィルムは洗浄する。
・ハウス内は、循環ファン等を設置して温度ムラを減らすとともに、時間帯に応じた細やかな温度管理ができる変温装置を活用したり、暖房機の温度を生育適温の下限に設定するなど適正な温度管理に努める。

花　き

１　秋ギク

（１）生育状況

・生育は良好で、開花は平年並の見込みである。
・病害虫はヤガ類やアブラムシ類が散見される。

【表　秋ギクの生育状況（10月10日現在）】

場　所	年　次	品　種	定植月日（月日）	草　丈（cm）	葉　数（枚）	備　考
五所川原市	本　年	神　馬	７月９日	117.1	63.5	2本仕立て
	（平年差・比）		（３日遅）	（99%）	（97%）	
	平　年	神　馬	７月６日	118.0	65.4	2本仕立て
	前　年	神　馬	７月10日	117.2	71.6	2本仕立て

注）平年：平成22～令和5年の14か年の平均値

（２）今後の作業

ア　病害虫防除

・白さび病や灰色かび病の予防を定期的に行うとともに、アザミウマ類等の害虫の防除を徹底する。

イ　収穫

・２～３分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

・早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

（３）キクの親株育成

ア　親株の整理

・収穫後の株を翌年の親株にする場合は、形質が優良で、病害虫に侵されていないものを残す。

イ　親株の伏せ込み

・伏せ込みは、10月下旬までに日当たりと排水の良いハウスで行う。11月にずれ込んだ場合は、活着を促すためトンネル等を設置する。

ウ　親株の伏せ込み後の管理

・伏せ込み直後は、十分にかん水して活着を促し、活着後は５℃以下の低温に十分に遭遇させる。

・白さび病及び灰色かび病の予防やアザミウマ類等の薬剤防除を定期的に行う。

※本年度の畑作・野菜・花き生産情報は今回で終了します。
来年度は４月から発行する予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中　～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づく適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！
緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

◎農薬を正しく使いましょう。

１　農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、農薬は適正に使用しましょう。
○農林水産省「農薬情報」
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
○農林水産省「農薬登録情報提供システム」
https://pesticide.maff.go.jp/

２　飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。

３　クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。

４　市販の除草剤のうち、「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」は、農作物等の栽培管理に使用してはいけません。

５　農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

１　栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。

２　家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が３日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。

３　家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は２か月、土壌に近い野菜は４か月空けましょう。

４　農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/yasai_eiseikanri.html

◎備えあれば、憂いなし！　農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

１　自然災害リスクをカバーしたい方

農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。

２　様々なリスクをカバーしたい方

収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

※詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎秋の農作業安全運動展開中です。（９月１日～10月31日）

県では、農業機械等による事故を防止するため、「秋の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認！」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

＜農作業安全のポイント＞

１　作業環境に危険な箇所がないか事前に確認し、改善・整備を行いましょう。

２　なるべく１人での作業は避けるとともに、緊急時の連絡のために携帯電話を持ち歩きましょう。

３　家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけ合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょう。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（６月25日～11月30日）

農作業は、１人での作業を避け、「ラジオやクマよけスプレーを携帯する」、「食べ物や空の容器はすぐに片付ける」、「農作物残渣は適正に処理する」など、人身被害の防止に努めましょう。

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう。

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。

申請・お問合せは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

☆青森県総合防除計画を策定しました☆

県では、植物防疫法に基づく国の「総合防除基本指針」に即して、化学農薬のみに頼らない病害虫防除を行うための計画「青森県総合防除計画」を定めました。農作物の高品質生産とコスト低減に向けて、みんなで総合防除に取り組みましょう。

https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140

連 絡 先　農産園芸課
稲作・畑作振興グループ
県庁内線　５０７３
直　　通　０１７－７３４－９４８０

野菜・花き振興グループ
県庁内線　５０７６
直　　通　０１７－７３４－９４８１